

Tokyo Philharmonic Orchestra

Season 2024 subscription series

Booklet



東京フィルハーモニー交響楽団

English pages inside



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten Mobile

マルハニ

LOTTE

JP ゆうちょ銀行
BANK

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第166回東京オペラシティ定期シリーズ

11月13日(水) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第1008回オーチャード定期演奏会

11月17日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第1009回サントリー定期シリーズ

11月19日(火) 19:00開演 サントリーホール

11/13

11/17

11/19

指揮：アンドレア・バッティストーニ

コンサートマスター：近藤 薫

マーラー：

交響曲第7番『夜の歌』(約80分)

- I. ゆるやかに(アダージョ) — アレグロ・リゾルト、マ・ノン・トロポ
- II. 「夜の歌 I」 アレグロ・モデラート
- III. スケルツォ：影のように
- IV. 「夜の歌 II」 アンダンテ・アモローソ
- V. ロンド・フィナーレ：アレグロ・オルディナリオ

※途中休憩はございません。

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(11/17)



♪ 本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。

♪ 演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフのご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。

♪ 曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

♪ 演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

♪ 演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に任命された。

『ナブッコ』『リゴレット』『蝶々夫人』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイーダ』のほか、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015）、『イリス（あやめ）』（2016）、『メフィストーフェレ』（2018）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を得た。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDのリリースを継続している。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ドレスデン州立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、アレーナ・ディ・ヴェローナ、マリインスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニの ぼくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。

2021年、東京フィルとの録音『ドヴォルザーク新世界&伊福部作品』欧米盤が欧州の権威ある賞の一つ「OPUS KLASSIK 2021」交響曲部門（20-21世紀）を受賞した。

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

楽曲紹介

解説＝野本由紀夫

今月の定期演奏会について

今月のプログラムは、東京フィルの首席指揮者、バットイストーニにとって、マーラーの交響曲のなかでも人生で「初めて」振る第7番だという。東京フィルの定期演奏会としても、2002年10月の第666回以来、22年ぶりの演奏となる。

バットイストーニはインタビュー記事のなかで、第7番は「ストーリーテリングの質の高さ」が特徴で、「演劇的な交響曲」だと述べている。「感動的な旋律、常軌を逸した色彩、エキサイティングなサウンドなど、この交響曲には多彩な魅力が詰まっています」。「東京フィルが培ってきたマーラー演奏の伝統に新しいアイディアを積み上げていくのが私の仕事だと思っています」。ホールで、生で聴いてこそその感動体験を大いに期待したい。

マーラー 交響曲第7番『夜の歌』

交響曲第7番は、マーラー(1860-1911)の全交響曲のなかでも、もっとも複雑で難解だといわれる。全体構成も、第3楽章を中心軸として対照的な楽章配置になっているものの(7ページ「全体見取り図」参照)、第1～4楽章が陰鬱な音楽なのに対し、第5楽章はそれまでの苦労を水泡に帰するかのごとく、まるで能天気な明るい音楽になってしまう。これが聴衆を戸惑わせてきた。

第7番はしばしば『夜の歌』と呼ばれるが、それは第2楽章と第4楽章が「ナハトムジーク(夜曲)」と題されているからである。ドイツ語のナハトムジーク Nachtmusik はフランス語のノクチュルヌ Nocturne(夜想曲)に相当し、要するに「セレナード」のことだ。ドイツ・ロマン主義文学において、「夜」は「死の世界」の隠喩でもあったことを考えると、この曲もマーラー初期からのテーマ「死、自然、人間」と重なっていることがわかっていく。

ステージを見てのとおり、オーケストラはかなりの巨大編成。テナー・ホルンや、ギター、マンドリン、グロッケンロイト（鐘のような響きの金属板）など、オーケストラとしてはめずらしい楽器まで含む。しかし、圧倒的な音量よりも、むしろ繊細な「音色変化」にこだわった交響曲といえる。ステージ上にはあふれんばかりの人数がいるにもかかわらず、むしろ室内楽（少人数のアンサンブル）的で入念な書法や響きが追及されている。

第1楽章 序奏付きのソナタ形式の楽章。葬送行進曲を思わせる序奏は、重々しい付点リズムではじまる。演奏開始後3分半ほどでアレグロの主部（呈示部）に入り、ホルンが主要主題「ミ・シ・シ・シ・ソ・ファ# | ミ・ラ・」を勇壮に奏する。テンポが緩まると、弦楽器による甘美でとろけそうな副主題が歌われる。これは、第6交響曲の「アルマの主題」を变形したものだ。

再び猛々しい音楽になると（6分ごろ）、かなり長い展開部となる。途中、弦楽器のトップたちによる甘美な部分や、最弱音でのトランペット・ファンファーレ、ヴァイオリン独奏、2台のハープの劇的な参入もある。

シンバルの一撃（14分ごろ）とともに突如冒頭の静かな序章に戻り、再現部となる。今度は打楽器群も充実していて、色彩的だ。打楽器群の強力なクレッシェンドを合図に、コーダ（終結部）となり、ホ長調で高らかに楽章は閉じられる。

第2楽章「夜の歌Ⅰ」 2種類のトリオ（中間部）が計3回出てくるセレナードである。鳥のさえずりや、牛の首に付けるカウベルなども登場し、いわば耳で聴く風景画である。

第3楽章「スケルツォ」 「影のように」と指示書きがあるスケルツォ楽章。きわめてグロテスクな楽章で、妖怪や魑魅魍魎^{ちみもうりょう ばっこ}が跋扈^{はつこ}しそうな、パロディ化されたワルツである。オーケストラ奏者にも指揮者にも、かなりの「神経戦」を強いる難曲である。

第4楽章「夜の歌Ⅱ」 月明かりのなか、恋人の窓辺で歌う「セレナード」をほうふつとさせる音楽で、まさにルネサンス風の「愛の歌」である。古くからセレナードで使われてきた楽器といえば、ギターやマンドリンだろう。大オーケストラのなかには、ほとんど聞こえないこれらの楽器をあえて使うことで、室内乐的で精緻な響きを目指したのだろう。

第5楽章「ロンド・フィナーレ」 これまでの楽章にくらべ、まったく異質なドンチャン騒ぎの楽章。「明るい」というレヴェルではないので、「超長調」な

どという人さえいる。マーラーも一度この楽章を「昼」と言っていた。作曲家自身がこの交響曲を指揮したときには(生涯に5回振っている)、このあとにワーグナー(1813-1883)の『マイスタージンガー』前奏曲をプログラミングしたという。たしかに、雰囲気的に共通する部分があるかもしれない。最後は、多数の打楽器が参加して、華々しく終わる。

●マーラー: 交響曲第7番の「全体見取り図」(表の大きさは、演奏時間に比例) 作表:野本由紀夫

第I部	第II部			第III部
第1楽章	第2楽章	第3楽章	第4楽章	第5楽章
(タイトルなし)	『夜の歌I』	スケルツォ	『夜の歌II』	ロンド・フィナーレ
約21～25分	約15～17分	約10分	約13～15分	約17分
序奏: 口短調 主部: ホ短調	ハ長調	二短調	ヘ長調	ハ長調
序奏付きのソナタ形式。「舟をこぐリズム」による序奏。テナー・ホルンが使われる。	ホルンにはじまる夜の行進曲風バラード。鳥の鳴き声や、遠くでカウベルが聞こえる。トリオが2つある。	「影のように」と指示されたスケルツォ。グロテスクな一種の「死の舞踏」。	ギターやマンドリン、ハーブが使われ、憧憬に満ちた愛のセレナード。独奏ヴァイオリンあり。	ロンド形式。「超長調」。ティンパニが派手に活躍。金管群のファンファーレ。第1楽章の回想あり。
陰鬱な「夜」の世界				「昼」の世界

[作曲年代] 1904～05年

[初演] 1908年9月19日にプラハにて、作曲家自身の指揮、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の演奏による

[楽器編成] ピッコロ、フルート4(4番はピッコロ持ち替え)、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン、小クラリネット、クラリネット3、バス・クラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テナー・ホルン、チューバ、ティンパニ、打楽器(タン布林、小太鼓、大太鼓、トライアングル、カウベル、グロッケンシュピール、グロッケンロイテ(低音の鐘)、シンバル、タム・タム、むち)、マンドリン、ギター、ハーブ2、弦楽5部

のもと・ゆきお／玉川大学芸術学部教授。先月開催された日本音楽教育学会の第55回大会で実行委員長を務めた(同学会史上、最多の発表者数)。NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」解説者。今年は、NHK「チコちゃんに叱られる」、NHK-BS「フジコ・ヘミング」追悼番組にも出演。11月には横浜アリーナで2,000人の合唱団の第九を指揮予定。

[特別寄稿]

アンドレア・バッティストーニ

マーラー 交響曲第7番 『夜の歌』によせて

文=アンドレア・バッティストーニ

訳=井内美香



グスタフ・マーラーの交響曲

現代の音楽解説者の多くは今や、グスタフ・マーラーの交響曲の価値に加えてその人気を認めるのに異論はないだろう。この作曲家の名声と評論家たちからの高評価は、20世紀を通じて加速度的に増加してきた。

今日では、彼の交響曲はベートーヴェンのそれと同じくらい頻繁に演奏され録音されており、音楽愛好者たちも、同様の期待をもってそれらの演奏を待ち望んでいるように思える。

だが作曲家ごとに、大多数の聴衆から特に愛される交響曲があり、マーラーについても同じことが云える。

マーラーの交響曲の中で最も人気があるのはおそらく、第1番と第5番だろう。ほとんど叙述的といえる、表現力に富む魅力的なアーチ(弧)の中で、音の輝きと旋律の幸福で構成された音楽的素材が互いに結びついているからだ。第2番、第3番、そして第8番は、記念年や開幕などを祝うためによく取り上げられる、重要な機会にふさわしい作品である。

第4番は編成が小さく、マーラーにしてはやや新古典主義的な表現法を使っているため、比較的小規模なオーケストラでも挑戦しやすい。第6番と第9番はその悲劇的な深みにより、実力を示す場として、偉大な指揮者たちや誉れ高いアンサンブルに選ばれてきた。

謎めいた交響曲、第7番

第7番は一見したところ、彼のすべての交響曲の中で最も演奏の機会に恵まれない作品であり、多くの聴衆にとっては未だに何か謎めいた交響曲と映る。

私はこれまでずっとその理由を解明しようとしてきた。なぜなら私自身は反対に、すぐにこの作品に恋をしてしまったから。

私は直ちにこの作品の見かけ上の矛盾に魅了された。思うにこの交響曲は、マーラーのその時点までのすべての作曲経験を凝縮したともいべき存在なのだ。

第7番を第5番と比較することは、その類似点および相違点をはっきりさせるために有益だろう。二つの交響曲は、五楽章という形式は共有しているが、その行程は大きく異なる。

第5番が劇的で英雄的な風格を備え、ベートーヴェンの第五番の例に倣って、葬送行進曲の暗闇からフィナーレのコラールの華々しい勝利へと至る“苦難を越えて星々へ”(訳註：ラテン語の成句)という旅を暗示する一方で、第7番は奇怪で眩惑的な雰囲気の中に息づいている。

だがそれは、マーラーが使った唯一のニュアンスではない。

この交響曲もまた夜の闇から生まれているが、第7番においては、第5番がそうであるように神秘や不可思議と戦うのではなく、むしろそれらを喜んで受け入れている。マーラーは、彼の選択を説明するために音楽以外の何かを語る副題を残すことはしなかったが、第2楽章と第4楽章につけられたタイトル「ナハトムジーク(夜の音楽) I&II」が我々に提示するのは、妖しく幻想的だが、だからといって恐ろしくはない存在たちの、夢のような世界である。

「ナハトムジーク」という言葉は、モーツァルトの有名なセレナーデにも使われているタイトルで、我々が第7番に関わる時には、この表現の雰囲気を意識する必要がある。

夜の音楽＝ナハトムジーク

この交響曲もまた、マーラーの作品によく見られるように、葬送行進曲の一種で始まり、その厳粛なりズムは、シンフォニー・オーケストラでは滅多に使われないテノールホルンによる悲しげな歌を伴奏する。この楽器はすぐに、民族音楽、あるいは地球の奥底から生まれる古代の歌のような音色までを呼び起こす。

だがこの第1楽章は、第5番の冒頭部分のそのように陰鬱な音色に長く留まることはない。オーケストラは奮い立ち、戦いのファンファーレと共にすみやかに動きに身を投じるが、ファンファーレはしばしば、抒情的であると同時に、すでに表現主義的な緊張感を持つ間奏によって中断される。この表現主義は、シェーンベルクやベルクの手本となるものだ。

第2楽章は、哲学者テオドル・アドルノ(1903-1969)がマーラーについての忘れ難い評論で述べたように、あの開けた空間の中を、兵士たちの夜の歩哨の団が遠くを行進していき、羊の群れにまで遭遇するような光景を思い起こさせる。この音楽についての最良の記述はメンゲルベルクのもので、彼は次のように述べている：レンブラントの「夜警」を見ると、この非常に特異な音楽と、オランダ人画家によって描かれた、奇怪な寓話の登場人物たちともいうべき絵画との間の類似点が想起される。



レンブラント・ファン・レイン「夜警」
(1642、アムステルダム国立美術館蔵)

活力に満ちたスケルツォがそれに続く。第5番のスケルツォが壮大で宇宙的な感興を持っていたのに対し、第7番のスケルツォは、こちらが予期せぬ時に噛みつく攻撃の機会をうかがっている蛇のように、鳴り響くティンパニの打撃、高音域でのチューバの咆哮を差し挟みながら、じわじわと這い進む。その合間にはチロル音楽のアクセントが挟まれ我々を喜ばせてくれる。

第5番の叙情的な憩いの場は有名なアダージェットだが、第7番には奇妙なセレナーデがある。ギターやマンドリンを伴ったセレナーデ、マリオネットや、コメディ・デッラルテの仮面役者たちのセレナーデで、そのメロディーはシューベルトや、マーラー自身のより気楽な歌曲との類似性を示している。夜は未だ暗く予感に満ちているが我々を恐れさせることはなく、甘美さと哀愁、そして、マーラーがおそらくシューマンから学んだであろう「sehnsucht（ゼーンズフト）憧憬」が、我々を惑わせる。

そして、長い暗闇の後に一筋の光が差し、解き放たれたティンパニが我々をフィナーレに導く。このフィナーレはおそらくマーラーの作品の中で最も明確に外向的で、その主題は否応なく、ワーグナーの『ニュルンベルクのマイスタージンガー』のそれを思い起こさせる。鐘、カウベル、金管楽器と打楽器が、祝祭的で、その外向性においてほとんど中世の風刺詩的な雰囲気を作り出す。

並外れた感受性の中を巡る奇妙な旅路

多くの批評家が、ここまで続いてきた洗練と高尚さの後の、このフィナーレの厚かましさを指摘している。

だが私はこのフィナーレに違和感はなく、むしろ非常に刺激的であり、1人の作曲家の並外れた感受性の中を巡る奇妙な旅路の、意表をついた終結に相応しいと感じる。彼はこの交響曲で世界を、もはや叙事詩的な旅ではなく、熱情と偶然と予測不可能性に満ちた人形芝居の劇場として描いているように思われるのだ。

井内美香（いのうち・みか）／1963年静岡県沼津市生まれ、東京育ち。音楽ライター、オペラ・キュレーター。学習院大学修士課程とミラノ国立大学で音楽学を学ぶ。ミラノ在住のフリーランスとしてオペラ、バレエに関する執筆、通訳、来日公演コーディネイトの仕事に20年以上携わる。2012年からは東京在住となり、オペラに関する執筆、取材、講演の仕事をしている。共著書「200CDアリアで聴くイタリア・オペラ」（立風書房）、「バロック・オペラ その時代と作品」（新国立劇場運営財団 情報センター）、訳書「わが敵マリア・カラス」（新書館）、等がある。オペラ台本翻訳、字幕制作も数多い。

The 166th Tokyo Opera City Subscription Concert

Wed. Nov. 13, 2024, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 1008th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Nov. 17, 2024, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 1009th Suntory Subscription Concert

Tue. Nov. 19, 2024, 19:00 at Suntory Hall

Andrea Battistoni, conductor

Kaoru Kondo, concertmaster

Mahler: Symphony No. 7 (ca. 80 min)

- I. Langsam (Adagio) – Allegro risoluto, ma non troppo
- II. Nachtmusik I. Allegro moderato
- III. Scherzo. Schattenhaft
- IV. Nachtmusik II. Andante amoroso
- V. Rondo-Finale. Allegro ordinario

*no intermission

Presented by the Tokyo Philharmonic Orchestra
Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
Japan Arts Council
In Association with **Bunkamura** (Nov. 17)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artist Profile



©Takafumi Ueno

Andrea Battistoni, conductor

Chief Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star with an international reputation as one of the most important conductors of his generation. He was appointed First Guest Conductor at the Teatro Carlo Felice in Genoa in 2013, and Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 2016.

In Tokyo he has proved to be a sensation with his charisma and sensitive musicality, conducting Tokyo Phil in operas such as *Nabucco*, *Rigoletto*, *Madama Butterfly* (Nikikai), and *Aida* (co-produced grand opera), as well as numerous symphonic works including *Roman Trilogy*, *Pictures at an Exhibition*, and *Rite of Spring*. The concert-style operas he has led - *Turandot* (2015), *Iris* (2016), and *Mefistofele* (2018) have secured his reputation as a leading light with critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Bayerische Staatsoper in Munich, the Royal Opera House-Covent Garden, Semperoper of Dresden, Arena di Verona, Mariinsky Theater, and world-renowned orchestras such as the Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, and Israel Philharmonic.

His book, *Non è musica per vecchi* was published by Rizzoli 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.

In 2021, Andrea Battistoni, performing with Tokyo Phil, won the OPUS KLASSIK Prize 2021 in the 20th/21st Century symphonic category, one of the most prestigious classical awards in Europe, for their international disc, "Dvorak: Symphony No. 9, 'From the New World' & Works of Akira Ifukube."

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/maestrobbattistoni>

13
Nov17
Nov19
Nov

Program Notes

Text by Robert Markow

Mahler: Symphony No. 7

For most music lovers, including Mahler aficionados, the Seventh is the last of this composer's ten symphonies to engage their interest and sympathy. Aside from the Eighth, which requires monumental forces, it remains the least performed. The Seventh is, as one commentator (Eric Bromberger) put it, "the neglected stepsister" of the canon. The Seventh is also the symphony Mahler revised the most and the one that has caused publishers more editorial headaches than any other.

Yet, if the Seventh reveals its beauties and secrets more slowly than its companions, it is no less fascinating, thrilling, and sublime a symphony than any other by Mahler. Its very sound world makes it perhaps the most fantastical, even surrealistic, symphony Mahler ever wrote. Take the very opening, for instance, where we are immediately introduced to the haunting, powerful sound of an instrument Mahler used nowhere else, that of the tenor horn (a tuba-shaped member of the horn family, used mostly in band music). Mahler said this passage should sound like "a roar of nature." Or consider the bold, unaccompanied horn calls of the second movement, each answered by its own echo from distant mountain slopes (or perhaps from the inner recesses of the mind). Or in the same movement, about a minute after it begins, that amazing scale that swoops five and a half octaves from the heights into the depths of the orchestra. And then there is the exquisite use of mandolin and guitar in the second *Nachtmusik*. Countless more examples abound of Mahler's imaginative use of orchestral colors and effects.

The Seventh Symphony had a strange and protracted genesis. In the summer of 1904, while in the course of working on the finale of his Sixth Symphony, Mahler composed (or at least drafted) two additional movements, both of which he called *Nachtmusik* (night music), with no

13
Nov17
Nov19
Nov

clear idea as to how they would fit into a new symphony. Nothing more happened until late the following summer, when he wrote the remaining three movements in a great surge of creative energy. The mental impasse plaguing him that summer was broken by a nocturnal event commentators love to recount: Frustrated by his inability to find inspiration at his usual summertime haunt in Maiernigg (in southern Austria), he visited the Lago di Misurina in the high Alps. After a week of continuing frustration, Mahler began the voyage back to Maiernigg. He later wrote to his wife Alma that as he was being rowed across the lake from Krumpendorf to Maiernigg, “at the first stroke of the oars the theme (or rather the rhythm and character) of the introduction to the first movement came into my head – and in four weeks the first, third and fifth movements were done.” Yet it took a further three years for Mahler to put the finishing touches on the symphony. He led the first performance in Prague on September 19, 1908 as part of the festivities surrounding the sixtieth year of the reign of Emperor Franz Joseph.

Mahler did not leave an official description of the “meaning” of the Seventh Symphony, but he did discuss ideas with friends and colleagues. He told his Swiss friend William Ritter that it consisted of “three night pieces; at the end, bright day; as the basis of everything, the first movement.” He further described the first movement as “tragic night [which is] dominated by a tragic and elemental power, that of Death.” Hence, we have four genre pictures of differing aspects of night, followed by the bright of day. The subtitle sometimes appended to the symphony, “Song of the Night,” is apt, though it is not Mahler’s. The five movements create an arch form with a scherzo at the center framed by the two *Nachtmusiken*; this tripartite structure is in turn embraced by two massive pillars, the second of which (the Rondo-Finale) brings the symphony full circle by recalling at the end the thematic material from the opening pages.

The symphony opens with the first of its many marches, strolls or processions – more than in any other Mahler symphony. With the arrival of the main body of the movement (*Allegro risoluto*), the pace becomes measured and determined. Unison horns proclaim the main theme, which will resound throughout the sonata-form movement and return at the end of the symphony in glowing C major. Tension and anxiety give way briefly for the arrival of the second subject, a yearning theme for the violins and horns in counterpoint. The vast scope of this movement is such that when it finally crashes to a halt some 23 minutes after it began, most listeners will feel they already have sustained more emotional struggle than is contained within entire symphonies by most other composers.

The second movement is founded on a different sense of ambulation, this time more of an unhurried, good-natured stroll. It is laid out in ABACABA form, with the “A”s, as Anthony Newcomb puts it, “part march, part song.” One sometimes reads that Mahler intended to depict Rembrandt’s famous painting *The Night Watch*, but such is not really the case. “What is certain is that it is a march, full of fantastic chiaroscuro – hence the Rembrandt parallel,” noted the Dutch composer Alphons Diepenbrock.

The third movement constitutes some of the most macabre, bizarre, frightening and sinister music Mahler ever wrote. The score is marked *schattenhaft*, which translates literally as “shadowy,” but “spectral” or “hallucinatory” would be more to the point.

The fourth movement brings blessed relief from the nightmares of the third. If the symphony as a whole can be regarded as a journey through the dark of night into the bright of day, the second *Nachtmusik* takes place in the rosy glow of dawn. “Soft with voluptuousness, moist with languor and reverie, pearly with the dew of silver tears,” is William Ritter’s poetic description. The movement’s central episode is surely an unrestrained avowal of love, sung first by solo cello and horn – a searingly beautiful melody tinged with nostalgia.

13
Nov17
Nov19
Nov

Mahler called the Rondo-Finale the happiest music he ever wrote. There is an almost Bacchic exuberance to it, at times bordering on sheer frenzy. The mood is introduced in the first bars, which consist of a thunderous tattoo for timpani (“with bravura,” says the score), wildly trilling horns and a staunchly assertive subject for horns and trumpets – the movement’s principal theme that will recur often in alternation with much contrasting material. Throughout, Mahler fairly exults in unabashed orchestral virtuosity. As the end approaches, we hear incursions of the main theme from the opening movement. At first they seem to be harmonically disjunct, but finally, in the symphony’s glorious final pages, bells a-clanging, all is set right, and the music hurtles to an ecstatic conclusion.

GUSTAV MAHLER: Born in Kalischt, Bohemia, July 7, 1860; died in Vienna, May 18, 1911

Work composed: 1904-05 **World premiere:** September 19, 1908 in Prague, with the Czech Philharmonic conducted by the composer

Instrumentation: piccolo, 4 flutes (4th doubling on piccolo), 3 oboes, English horn, E♭ clarinet, 3 clarinets, bass clarinet, 3 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tenor horn, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cowbell, glockenspiel, bell, cymbals, tam-tam, rute), mandolin, guitar, 2 harps, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

Season 2025 Subscription Concerts

Each year, the Tokyo Philharmonic Orchestra (TPO), Japan's oldest continuously-operating orchestra (founded in 1911), provides its audiences with imaginative programming of repertory familiar and unfamiliar. The 2025 subscription season is no exception. Here we find such well-known favorites as Beethoven's *Eroica* Symphony and Stravinsky's ballet score *Petrushka*, and such little-known but worthy compositions like Elgar's Third Symphony and Pizzetti's *Concerto dell'estate*. World-class conductors, both Japanese and foreign, and prestigious soloists adorn the lineup. Let's take a closer look at each program: —Text by Robert Markow

February	
Myung-whun Chung , conductor/piano Hina Maeda , violin Jaemin Han , cello	
Mon/Holi, Feb 24, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Beethoven: Triple Concerto for Piano, Violin and Cello in C Major, Op. 56
Tue, Feb 25, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	Beethoven: Symphony No. 3 in E-Flat Major, Op. 55, <i>Eroica</i>
Wed, Feb 26, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	
March	
Andrea Battistoni , conductor	
Sun, Mar 9, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Stravinsky: <i>Petrushka</i> (1947 edition)
Wed, Mar 12, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	Weber: Overture from opera <i>Oberon</i> , S574/R288
Fri, Mar 14, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	Hindemith: Symphonic Metamorphosis after themes by Carl Maria von Weber
April	
Tadaaki Otaka , conductor Izumi Tateno , piano	
Thu, Apr 24, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	A. Otaka: Excerpts from Traveling Muse for Orchestra(2020)
Fri, Apr 25, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	Ravel: Piano Concerto for the Left Hand
Sun, Apr 27, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Elgar: Symphony No. 3, Op. 88 (elaborated by A. Payne)
May	
Mikhail Pletnev , conductor Kanon Matsuda , piano	
Sun, May 11, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Chopin/Pletnev: Piano Concerto No. 1 in E Minor, Op. 11
Tue, May 13, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	Tchaikovsky: Excerpts from ballet <i>Sleeping Beauty</i> Op. 66 (Pletnev special edition)
Mon, May 19, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	

June	
Pinchas Zukerman , conductor/violin	
Sun, Jun 22, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Elgar: Serenade in E Minor, Op. 20
Mon, Jun 23, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	Haydn: Violin Concerto No.1 in C major
Tue, Jun 24, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	Mozart: Symphony No.41 in C major, K.551 <i>Jupiter</i>
July	
Min Chung , conductor Mayuko Kamio , violin	
Thu, Jul 17, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	Tchaikovsky: Violin Concerto in D major, Op. 35
Fri, Jul 18, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	Tchaikovsky: Symphony No. 6 in B minor, Op. 74 <i>Pathétique</i>
Sun, Jul 20, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	
September	
Andrea Battistoni , conductor	
Thu, Sep 11, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	Pizzetti: Concerto dell'Estate (Summer Concerto)
Fri, Sep 12, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	R. Strauss: An Alpine Symphony Op.64
Sun, Sep 14, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	
October	
Myung-whun Chung , conductor Makoto Ozone , piano	
Sun, Oct 5, 2025, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Bernstein: Symphonic Dances from <i>West Side Story</i>
Thu, Oct 16, 2025, 19:00 start at Suntory Hall	Gershwin: Rhapsody in Blue
Mon, Oct 20, 2025, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	Prokofiev: Excerpts from ballet <i>Romeo and Juliet</i>

Subscription ticket prices

()=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

SS¥96,000 S¥56,000(¥50,400) A¥47,600(¥42,840) B¥39,200(¥35,280)
C¥30,800(¥27,720)

How to join TOKYO PHIL FRIENDS ⇒ <https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>**Inquiries about tickets.**

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



東京フィルだより ― 2025年シーズン今後の定期演奏会

2月定期演奏会

新シーズン開幕!

第1010回オーチャード定期演奏会

2月24日(月・祝) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

第1011回サントリー定期シリーズ

2月25日(火) 19:00 サントリーホール

第167回 東京オペラシティ定期シリーズ

2月26日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮・ピアノ: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

ヴァイオリン: 前田妃奈*

チェロ: ハン・ジェミン*

ベートーヴェン/ピアノ、ヴァイオリンと
チェロのための三重協奏曲*

ベートーヴェン/交響曲第3番『英雄』



3月定期演奏会

第1012回オーチャード定期演奏会

3月9日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

第1013回サントリー定期シリーズ

3月12日(水) 19:00 サントリーホール

第168回 東京オペラシティ定期シリーズ

3月14日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮: アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

ストラヴィンスキー/バレエ音楽『ペトルーシュカ』(1947年版)

ウェーバー/歌劇『オベロン』序曲

ヒンデミット/ウェーバーの主題による交響的変容(ヒンデミット生誕130年)



【料金】 定期会員券(8公演年間通し券)

SS席¥96,000 S席¥56,000 A席¥47,600 B席¥39,200 C席¥30,800

1回券(2024年12月より順次発売)

SS席¥15,000 S席¥10,000 A席¥8,500 B席¥7,000 C席¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時〜18時/発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

2025シーズン定期演奏会 聴きどころ

文＝柴辻純子(音楽評論家)

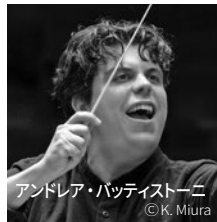
東京フィルハーモニー交響楽団2025シーズン定期演奏会(全8回)は、**名誉音楽監督**チョン・ミョンフン(2月、10月)、**首席指揮者**アンドレア・バッティストーニ(3月、9月)、**特別客演指揮者**ミハイル・プレトニョフ(5月)が、それぞれの指揮者ならではの個性豊かなプログラムを披露する。盤石な指揮者体制に、**桂冠指揮者**の尾高忠明(4月)、「午後のコンサート」での初共演が好評だった**ピンカス・ズーカーマン**(6月)、**アソシエイト・コンダクター**の**チョン・ミン**(7月)が加わり、オーケストラの魅力が存分に発揮される。



2月 シーズン開幕は、**名誉音楽監督**チョン・ミョンフンが登場。**ベートーヴェン・プログラム**を披露する。**三重協奏曲**は、2024年の東京フィルとの韓国ツアーと同様、マエストロがピアノの弾き振りで参加。今回は次世代を担う日韓の若手奏者と共演する。ヴァイオリンの**前田妃奈**は、2022年ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール優勝、マエストロ推薦のチェロの**ハン・ジェミン**は、2021年エネスク国際コンクールに史上最年少の15歳で優勝。国際的に実力が評価された2人のエネルギッシュな演奏に期待が高まる。**交響曲**は、昨年の『田園』に続き、『英雄』を取り上げる。2020年のベートーヴェン・イヤーに予定されていた(コロナ禍による渡航制限で延期の)『英雄』がようやく実現。その磨き抜かれた演奏は聴き手の胸を熱くするだろう。

チョン・ミョンフン
©上野隆文

3月 **首席指揮者**アンドレア・バッティストーニは、『春の祭典』『火の鳥』と取り上げてきた**ストラヴィンスキー**の三大バレエを『**ペトルーシュカ**』で締めくくる。ロシア民謡を採り入れながら、複調やポリリズムを用いてストラヴィンスキー独自のモダンリズムを確立した作品。マエストロは燃焼度高く、鮮やかに描くだろう。生誕130年のドイツの作曲家**ヒンデミット**「**ウェーバーの主題による交響的変容**」は、ウェーバーのピアノ曲や劇音楽をもとに仕上げた「少々尖がった」(ヒンデミット)作品。**ウェーバー**作曲の名曲『**オベロン**』序曲とともに取り上げる。近年、バイエルンやドレスデンなどドイツの歌劇場にも活躍の場を広げるバッティストーニのアプローチにも注目したい。

アンドレア・バッティストーニ
©K. Miura

4月

桂冠指揮者の尾高忠明が定期に登場。ソリスト

は、2025年に演奏生活65周年を迎えるピアノの

館野泉。1984年の東京フィル初のヨーロッパ演奏旅行をとも

にするなど、日本のクラシック音楽界を牽引してきた2人によ

る共演である。ラヴェルの「左手のためのピアノ協奏曲」は、

作曲家の生誕150年を祝して。エルガーの交響曲第3番は、

「誰も手をつけてはならぬ」と言葉を残して作曲家が世を去ったあと、1997年にA.ペ

インの補筆で完成。英国で活躍したマエストロにとって、日本初演を指揮するなど思

い入れが深い作品で、名演が期待される。尾高惇忠の『音の旅』(抜粋)は、ピアノ連

弾曲からの編曲。オーケストラの響きによって、その心優しい音楽がさらに深まる。



5月

特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフは、自身

の編曲による大作曲家の作品を2曲取り上げる。

ショパンのピアノ協奏曲第1番は、ピアニストとしても超一流

のマエストロならではの編曲。オーケスレーションに大幅に

手を入れ、独奏ピアノの美しさと妙技を輝かせる。ソリストの

松田華音は、6歳でモスクワに渡り、モスクワ音楽院で学ん

だ若手ピアニスト。ロシア伝統のピアノ奏法を身につけた松田と、マエストロが作り上

げるショパンは注目。チャイコフスキーのバレエ音楽『眠れる森の美女』は、プレトニョ

フ編曲による演奏効果抜群のピアノ独奏版を多くのピアニストが取り上げているが、

オーケストラ版が演奏されるのは超レア。マエストロのセンスが光り、作品の新たな魅

力発見にもつながるだろう。



6月

世界に轟く名ヴァイオリニスト、ピンカス・ズー

カーマンが弾き振りで登場。2023年の「午後のコ

ンサート」に続いての共演となる。指揮者としてのズーカー

マンは、作品への共感と作曲家への尊敬を込めた温かい音楽

を作り上げる。ハイドンのヴァイオリン協奏曲第1番では、ソリ

ストとして美音を響かせながら、オーケストラに寄り添った演

奏を聴かせてくれるだろう。エルガー「弦楽セレナード」では、オーケストラの弦楽器セ



クションから全幅の信頼を寄せられるマエストロのもと、味わい深い旋律を歌い上げるとともに、高密度のアンサンブルが期待される。モーツァルトの交響曲第41番『ジュピター』はまさに至福の時。「崇高無比」な交響曲は、まばゆい光を放つに違いない。

7月 アソシエイト・コンダクターの**チョン・ミン**は、韓国・江陵市交響楽団音楽監督を務めるなど、近年活躍の幅を大きく広げている。東京フィルの定期は3回目。過去の2回(2019年6月、2020年10月)は、「急遽の交代」によるため、今回が満を持しての登場となる。曲目は、**チャイコフスキー**の名曲2曲が並ぶ。**ヴァイオリン協奏曲**のソリストは、2007年第13回チャイコフスキー国際コンクール優勝の**神尾真由子**。音楽家としてのキャリアを着実に重ね、ますます好調の神尾が「一番の得意曲」とする協奏曲。哀愁を帯びた旋律を心に語りかけるように歌い、超絶技巧を輝かせながらオーケストラと火花を散らす演奏になろう。**交響曲第6番『悲愴』**は、東京フィルの実力が存分に発揮されるはずである。

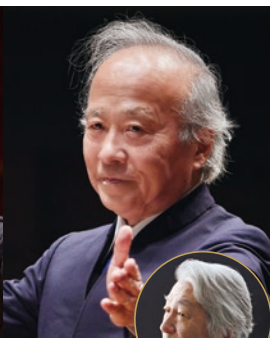


9月 首席指揮者**アンドレア・バッティストーニ**が待望の**リヒャルト・シュトラウスの『アルプス交響曲』**を取り上げる。大編成になるほどその実力を発揮するバッティストーニ。オーケストラを存分に鳴らし、オペラ指揮者として磨かれた表現力で作り上げる標題音楽に期待したい。マエストロがレスピーギ、カゼッラに続いて紹介するのは、イタリアのいわゆる「80年世代」の**ピツェッティ**。かつてカラヤンもその才能に注目していた作曲家。「**夏の協奏曲**」(1928)は、東京フィルが日本初演した、所縁のある作品。管弦楽のための3楽章の協奏曲だが、ピツェッティの田園交響曲と言われることも。自然をキーワードにした2作品のカップリングはバッティストーニならではのこだわりだ。



10月 シーズンを締めくくるのは**名誉音楽監督 チョン・ミョンフン**。近年、演奏会形式によるヴェルディのオペラで取り組んできたシェイクスピアの戯曲から「ロミオとジュリエット」に基づく2作品の間に、**小曽根真**がソリストを務める、**ガーシュウィン『ラプソディー・イン・ブルー』**をはさむ華やかなプログラム。**バーンスタインの『ウエスト・サイド物語』**より「**シンフォニック・ダンス**」は、リズムが躍動し、エネルギーが爆発する。**プロコフィエフのバレエ音楽『ロメオとジュリエット』**は、東京フィルと過去にも取り上げて絶賛を博した。20世紀に誕生したバレエとミュージカルの2つの名曲。そのドラマティックな世界をどのように描くのか楽しみだ。





指揮・ピアノ:

チョン・ミョンフン

名誉音楽監督

ヴァイオリン: 前田妃奈*

チェロ: ハン・ジェミン*

指揮:

アンドレア・バッティストーニ

首席指揮者

指揮:

尾高忠明

桂冠指揮者

ピアノ: 館野 泉*

指揮:

ミハイル・プレトニョフ

特別客演指揮者

ピアノ: 松田華音*

シーズンオープニング

ベートーヴェン

ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための

三重協奏曲*

交響曲第3番『英雄』

ストラヴィンスキー

バレエ『ペトルーシュカ』
音楽 (1947年版)

ウェーバー

歌劇『オベロン』序曲

ヒンデミット

ウェーバーの主題による

交響的変容

〈ヒンデミット生誕130年〉

尾高忠忠

『音の旅』(オーケストラ版)より

ラヴェル

左手のためのピアノ協奏曲*

〈ラヴェル生誕150年〉

エルガー

交響曲第3番

(A.ペイン補筆完成版)

ショパン(プレトニョフ編)

ピアノ協奏曲第1番*

チャイコフスキー

バレエ

『眠れる森の美女』より

(プレトニョフによる特別編集版)

オーチャード定期演奏会

開演15:00/開場14:15 Bunkamura オーチャードホール

第1010回 2.24 (月・祝)

第1012回 3.9 (日)

第1015回 4.27 (日)

第1016回 5.11 (日)

東京オペラシティ定期シリーズ

開演19:00/開場18:15 東京オペラシティ コンサートホール

※託児サービス有り(要予約・有料)

第167回 2.26 (水)

第168回 3.12 (水)

第169回 4.25 (金)

第170回 5.19 (月)

サントリー定期シリーズ

開演19:00/開場18:15 サントリーホール

第1011回 2.25 (火)

第1013回 3.14 (金)

第1014回 4.24 (木)

第1017回 5.13 (火)

**2025
シーズン**

東京フィルハーモニー交響楽団



			
指揮・ヴァイオリン： ピンカス・ズーカーマン	指揮： チョン・ミン アソシエイト・コンダクター ヴァイオリン：神尾真由子*	指揮： アンドレア・バッティストーニ 首席指揮者	指揮： チョン・ミンフン 名誉音楽監督 ピアノ：小曾根 真*
エルガー 弦楽セレナード ハイドン ヴァイオリン協奏曲第1番 モーツァルト 交響曲第41番 『ジュピター』	チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲* 交響曲第6番『悲愴』	ビゼット 夏の協奏曲 R. シュトラウス 『アルプス交響曲』	バーンスタイン 『ウエスト・サイド物語』 よりシンフォニック・ダンス ガーシュウィン ラプソディー・イン・ブルー* プロコフィエフ バレエ『ロメオとジュリエット』
			Bunkamura オーチャードホール
第1018回 6.22 (日)	第1021回 7.20 (日)	第1023回 9.14 (日)	第1024回 10.5 (日)
東京オペラシティ コンサートホール			
第171回 6.24 (火)	第172回 7.18 (金)	第173回 9.12 (金)	第174回 10.20 (月)
サントリーホール			
第1019回 6.23 (月)	第1020回 7.17 (木)	第1022回 9.11 (木)	第1025回 10.16 (木)

定期演奏会のご案内

【定期会員・特典】

- 特典1 専用指定席 シーズンを通して同じお席を確保いたします。
- 特典2 特別価格 1回券を同じ回数ご購入するよりもお得です。
- 特典3 最優先販売 主催公演のチケットを最優先でご案内します。
- 特典4 会場のお振替 同月の他会場定期演奏会へお振替いたします(一部対象外あり)。
- 特典5 各種イベントご案内 会員様限定イベントをご案内いたします。
- 特典6 翌年シーズンへの最優先継続権 お席を最優先で確保いたします。
- 特典7 チケット割引 主催公演チケットが定価の10%割引になります(一部対象外あり)。

- ▶ 新規定期会員券発売日
 - ・最優先発売(賛助会員) 11/22(金)10:00 ＊お電話のみ
 - ・優先発売(東京フィルフレンズ) 11/23(土・祝)10:00 ＊お電話のみ
 - ・WEB優先発売[定価の10%オフ] 11/23(土・祝)10:00～12/9(月)23:59
 - ・一般発売 12/10(火)10:00

▶ お申込み・お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

TEL **03-5353-9522**

WEB <https://www.tpo.or.jp/>

営業時間：平日10時～18時 定休日：土日祝日、年末年始
※チケット発売初日の土日祝のみ10時～16時営業



東京フィル

検索

東京フィルフレンズ | 入会金・年会費無料で、主催公演チケットを優先発売日より定価の10%割引でお求めいただけます(一部除く)。入会のお申込みは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお電話ください。

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
協力：Bunkamura (オーチャード定期演奏会)

ご注意 | 未就学児のご入場はお断りしております。やむを得ない事情により、出演者・演奏曲目・曲順などが変更となる場合がございます。公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしません。

定期演奏会2025特集ページ



第57回 千葉市定期演奏会 好評発売中!

日時 2025年2月16日(日) 15:00開演

会場 千葉市民会館 大ホール

出演 指揮: 角田鋼亮
チェロ: 鳥羽咲音*

曲目 ドヴォルザーク／スラヴ舞曲第1番
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲*
ドヴォルザーク／交響曲第8番

チケット問合せ

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522
(平日10:00～18:00)

千葉市民会館043-224-2431



角田鋼亮



鳥羽咲音

©JuliaWesely

三浦章宏ヴァイオリン・リサイタル Vol. 4

「自身の還暦を機に、娘・舞夏とムジカーザにて始まったリサイタルシリーズ。4回目の今年は、シリーズ化していたパッハの無伴奏をお休みし、シューベルトとベートーヴェン2曲に挑みます。どの曲もカラーが異なりますが、ヴァイオリンとピアノの絡み合いが重要になる作品。親子の息の揃った演奏を、おとどけいたします」(三浦)

日時 12月7日(土) 14:00開演(13:30開場)

会場 ムジカーザ

出演 三浦章宏(ヴァイオリン、東京フィルコンサートマスター)、三浦舞夏(ピアノ)

曲目 シューベルト／ヴァイオリンとピアノのための幻想曲 ハ長調 D934
ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ第7番 ハ短調 Op. 30-2
ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ第10番 ト長調 Op. 96

料金 前売り¥5,000／当日¥5,500

チケット問合せ イープラス <https://eplus.jp/> または
ぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード:277814]



三浦章宏

©YUJI HORI

ヴィオラ首席奏者の須藤三千代さんが退団されました。

1991年東京フィル入団、ヴィオラ首席奏者をつとめられた須藤三千代さんが10月で定年退団されました。東京フィルメンバーとして最後の出演は「ニチイケアパレス 秋の音楽祭2024」でした。

「ドイツ留学を経てオペラが好きになり、日本のオーケストラに入るなら『東京フィル』という思いで入団して33年。

東京フィルと共に過ごし『オペラ』そして後には『バレエ』が私の音楽の原点になりました。舞台上の歌手、ダンサー、指揮者とオーケストラ、さらに観客が一体となり、非日常の時空間を共有し、私自身も舞台上の演者として『歌う』『踊る』ことを演奏者として体現できたのは『東京フィル』の存在があったからです。

私一人では決して成し得ない事を沢山の方々のおかげで経験できた事に感謝致します。

最後に座右の銘『音楽と筋肉は裏切らない』。

長きにわたり、ありがとうございました。今後の活躍をお祈りいたします。



©上野隆文

クラリネット首席奏者の万行千秋さんが退団されました。

クラリネット首席奏者の万行千秋さんが10月で定年退団されました。東京フィルメンバーとしての最後の出演は出口大地指揮10月定期演奏会でした。

「オーケストラに入りたい!という小学校時代からの夢を叶えてくれたのは、新星日本交響楽団という当時は知らなかったオーケストラでした。大学出たで経験不足の私を、時には優しく時には厳しく、先輩方が育ててくださいました。東京フィルと合併してから様々なジャンルの仕事や素晴らしい指揮者、ソリストの皆さんに刺激をもらえて、とても充実した38年間を過ごす事が出来ました。これからは念願だった畑付きの田舎暮らしを満喫しながら、細々と演奏活動が出来ればと思っています。とにかく日本一、いや世界一かもしれない忙しいオーケなので、楽員の皆さまには身体に気をつけて楽しんで活動してほしいです。今後の益々の発展を、ファンの皆さまと共に応援したいです。これからも東京フィルをどうぞよろしくお願い致します」。

長きにわたり、ありがとうございました。ご健勝とご活躍をお祈りします。



2024シーズン 午後のコンサート

2024シーズンもたくさんのお客様にご来場いただきました。誠にありがとうございました！



4月「第100回休日の午後のコンサート」(指揮とお話:円光寺雅彦 他) ©友澤綾乃



6月「第101回休日の午後のコンサート」(指揮とお話:小林研一郎／司会:朝岡聡 他)



9月「第102回休日の午後のコンサート」(指揮とお話:横山奏／ゲスト:石丸謙二郎 他)

2025シーズン 午後のコンサートのご案内

2024シーズンの午後のコンサートも、毎回、たくさんのお客様にご来場いただき、誠にありがとうございます。2025シーズンの「午後のコンサート」シリーズは、2025年4月～7月の開幕を予定しております。2024シーズンのセット券をご購入いただいたお客様には**12月中旬**にお座席の「**継続のご案内**」をご送付いたします。来季も年間通じて東京フィルのコンサートをお楽しみいただければ幸いです。

ラインナップの詳細は会場にてお配りするご案内をご覧ください。

●2024シーズンセット券購入のお客様への、継続のご案内

12月中旬に、お座席の「**継続のご案内**」を郵送でお送りいたします。
継続のお申込み受付期間は12月中旬～12月末にかけて予定しております。

●2025シーズンの4回セット券を新規にご購入されたいお客様へ

以下のスケジュールで発売を予定しております。継続の状況により、席種・シリーズによっては完売となっている可能性もございます。あらかじめご了承ください。

最優先発売(賛助会員様、定期会員様)	2025年2月初旬
優先発売(東京フィルフレンズ会員様)	2025年2月上旬
WEB優先販売	2025年2月上旬～下旬
一般発売	2025年2月下旬

1回券は、4回セット券販売後、残席ある場合にのみ販売いたします。各公演の発売日は別途ご案内いたします。

■お問合せ

東京フィルチケットサービス

03-5353-9522(平日10時～18時／土日祝休)

東京フィルWEBチケットサービス

<https://www.tpo.or.jp/>

午後のコンサート 2025シーズンラインナップ

プログラムなど詳細は東京フィルウェブサイトまたは会場でお配りしているご案内もご参照ください。



渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

4月29日(火・祝) 第25回 《笛吹きの休日》	6月8日(日) 第26回 《コバケン、200歳を祝う》	8月3日(日) 第27回 《山の思い出II》	10月13日(月・祝) 第28回 《なんでもOKストラ!!》
指揮とお話: 角田鋼亮 フルート: 工藤重典、Cocomi	指揮とお話: 小林研一郎 ナビゲーター: 朝岡 聡	指揮とお話: 横山 奏 ヴァイオリン:中野りな ゲスト:石丸謙二郎	指揮とお話: 円光寺雅彦 ピアノ: 清塚信也

平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

4月30日(水) 第37回 《笛吹きの休日》	6月9日(月) 第38回 《コバケン、200歳を祝う》	8月5日(火) 第39回 《山の思い出II》	10月8日(水) 第40回 《なんでもOKストラ!!》
指揮とお話: 角田鋼亮 フルート: 工藤重典、Cocomi	指揮とお話: 小林研一郎 ナビゲーター: 朝岡 聡	指揮とお話: 横山 奏 ヴァイオリン:中野りな ゲスト:石丸謙二郎	指揮とお話: 円光寺雅彦 ピアノ: 清塚信也

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

7月27日(日) 第104回 《クライスラーの夢》	8月10日(日) 第105回 《ノスタルジック・クラシック》	9月21日(日) 第106回 《二人は魔術師》	11月24日(月・祝) 第107回 《音楽もの・かたり》
指揮とヴァイオリンとお話: 三浦文彰 ナビゲーター: 中井美穂	指揮とお話: 出口大地 ギター: 荘村清志	指揮とお話: アンドレア・ バッティストーニ (首席指揮者) ヴァイオリン: 村田夏帆	指揮とお話: 円光寺雅彦 語り: 石丸幹二

◆渋谷／平日／休日 各シリーズ共通 4回セット券

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員／WEB優先発売期間	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。お申し込みの際は【イベント託児・マザーズ@】0120-788-222 (土日祝日を除く 10:00-12:00、13:00-17:00)までご連絡下さい。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時～18時／土日祝休 発売日の土日祝のみ10時～16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>

Photo Reports 2024年10月のコンサートより

芸術の秋を迎えた10月は世界で活躍するソリストたちが、人気のマエストロたちとともに登場。時代を超えた名曲から、実演機会の少ない20世紀の革新的な協奏曲まで、東京フィルとの息もぴったりですばらしい演奏を聴かせてくれました。

文京シビックホール 響きの森クラシック・シリーズ Vol.81(10/5)

撮影=三浦興一

指揮：小林研一郎

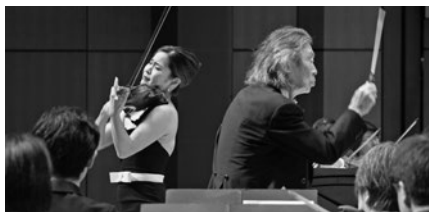
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲*

ヴァイオリン：神尾真由子*

ベルリオーズ／幻想交響曲



「響きの森クラシック・シリーズ」の顔ともいえるマエストロ小林研一郎



神尾真由子さんは不朽の名作ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲で登場

第103回休日の午後のコンサート(10/14)〈クラシックの車窓からII〉

撮影=堀田力丸

指揮とお話：角田鋼亮 チェロ：鳥羽咲音*

コンサートマスター：近藤薫

オッフェンバック／喜歌劇『天国と地獄』序曲

ウェーバー／歌劇『オベロン』序曲

グルダ／チェロ協奏曲より

(第1楽章 序曲／第2楽章 牧歌／第5楽章 終曲：行進曲風に)*

E. シュトラウス／ポルカ・シュネル『蒸気をあげて』

J. シュトラウス／ポルカ・フランセーズ『鍛冶屋のポルカ』

E. シュトラウス／ポルカ・シュネル『テープは切られた』

ヴェルディ／歌劇『アイダ』より凱行行進曲

J. シュトラウスⅡ／ポルカ・シュネル『観光列車』



グルダ「チェロと吹奏楽のための協奏曲」は管楽器・コントラバス・エレキ楽器、ドラムスという珍しい編成でした

10月定期演奏会(10/17,18,20)

撮影=平舘平(10/17)、上野隆文(10/20)

指揮：出口大地 ヴァイオリン：服部百音*

コンサートマスター：三浦章宏

ハチャトゥリアン／『ヴァレンシアの寡婦』組曲より

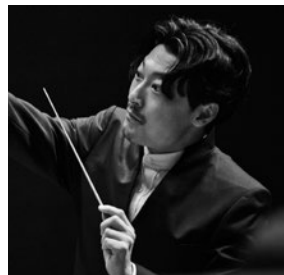
(1. イントロダクション 3. 歌 6. ダンス)

ファジル・サイ／ヴァイオリン協奏曲『ハーレムの千一夜』*

【ソリスト・アンコール】パガニーニ／ヴェニスへの謝肉祭

コダーイ／ガラント舞曲

コダーイ／ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲



ファジル・サイ『ハーレムの千一夜』では、中央アジア～アフリカの打楽器3種も活躍。ソリスト服部百音の妖艶にして野性的な演奏に躍動を添えます



3公演で全身全霊の演奏を繰り広げたマエストロ出口大地とヴァイオリニスト服部百音



公開リハーサルではマエストロ出口がプログラムの聴きどころを語り、それぞれの楽曲が生まれた背景に思いを馳せるひと時にもなりました

東京フィルハーモニー交響楽団 とのお付き合い

第26代学校法人学習院院長 学習院名誉院長
内藤 政武



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第29回は、パートナー会員として東京フィルをご支援くださっている内藤政武様。ご両親の影響で幼少期よりクラシック音楽に親しみ、東京オペラシティビルとコンサートホールの建設をきっかけに40年余にわたり東京フィルを応援くださっています。

東京フィルハーモニー交響楽団を身近に感じ、ファンとなったのは、私が東京オペラシティビルとコンサートホール建設の担当者になったときからですので、今から40年前くらい前からでしょうか。

私は両親がクラシック音楽を趣味としていましたので、小さい時から音楽を聴く機会に恵まれていました。父はベートーヴェンの交響曲の第1番から第9番までのスコアとレコードを持っていて、家にいるときはしょっちゅう聴いていました。母は学生時代から声楽を習っていて、合唱団に入って歌っていました。私は学生時代から、母の演奏会には欠かさず聴きにきました。指導の先生は前田幸市郎氏で、ブラームスのドイツ・レクイエムとかフォーレのレクイエムなどの宗教音楽でした。

私のクラシック音楽の趣味に火が付いたのは、中学2年の時、学校の授業の一環で音楽会に行ったときでした。曲目はセザール・フランクの交響曲二短調でした。感激して何日も何日もメロディーを口ずさんでいました。それからラジオのクラシック番組を片っ端から聴きました。まだテレビのない時代で、NHKラジオの第二放送はほとんどクラシック専門放送でした。毎日10曲以上聴いていましたから、大方の曲はおぼえてしまいました。ドヴォルザークの交響曲第9番『新世界』をドヴォルザークの交響曲第5番と言っていた時代です。



2024年夏の軽井沢で、音楽と
読書にいそしむ避暑風景

話は現在に戻りますが、東京オペラシティ コンサートホールの所在地は、元小田急百貨店の物流センターでした。当時私は小田急百貨店の財産管理の担当もしていましたのでこの問題に関わることとなりました。文部科学省の新国立劇場建設に伴い、予定地の隣に物流センターのある小田急に協力要請の話がありました。いろいろ紆余曲折がありましたが、当社を含む数社が新国立劇場の隣接地にオフィスビルと文化ゾーン建設について合意をして、高層オフィスビルとコンサートホール等の建設に取り掛かりました。この高層オフィスビルのテナントとして東京フィルの事務所が入居することが決まり、また恒常的に練習所として使用することとなり、親しいお付き合いのご縁が出来たのでした。

レベルの高いホールを造る、これが原則でした。文化施設懇談会を設立していろいろ議論をしました。武満徹氏を座長にして検討を進めたのです。私も委員として参加しました。平成2(1990)年から5年ほど議論しましたが、残念なことに武満氏はホールオープンを見ずに、平成8(1996)年2月20日に逝去されました。まことに残念でありませんが、東京オペラシティ コンサートホールは武満イズムの下で今も息づいていると思っています。レベルの高いホールを目指すには、世界の名だたるホールを知る必要があるとの考えで、我々担当者でヨーロッパの主要なコンサートホールを視察しました。ロンドンを皮切りに、アムステルダム、パリ、ウィーン、ミラノ、チューリッヒ、ベルリンでコンサートを聴き、楽屋を視察しました。貴重な経験でした。

平成9(1997)年9月10日にオープンしてから約30年がたち、東京フィルのコンサートを聴いていますが、木造のホールとして特別認可によって完成したので、音はどんどん趣を増してよくなっていると思います。東京フィルの音とともに益々ホールの評価が上がることを期待して止みません。

内藤政武(ないとう・まさたけ)／昭和13(1938)年東京生まれ。学習院大学政経学部経済学科卒業。幼稚舎から大学まで学習院に学ぶ。(株)小田急百貨店常務取締役、東京オペラシティアーツ(株)取締役、学習院院長を歴任。現在学習院名誉院長。

初霜の折、時下いっそうご壮健のこととお喜び申し上げます。

今月も、皆様のあたたかなご支援に厚く御礼申し上げます。

今回は、シーズンの締めくりにふさわしいプログラムをお届けいたします。

首席指揮者アンドレア・パッティストーンが東京フィルと紡ぐ音楽を心ゆくまでお楽しみください。

東京フィルはこれからも、皆様のご期待にお応えできるよう努めてまいります。

引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

法人会員

賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)IIIH
代表取締役社長 井手 博

(株)アイエムエス
取締役会長 前野 武史

(医)相澤内科医院
理事長 相澤 研一

アイ・システム(株)
代表取締役会長 松崎 務

(株)アシックス
シニアアドバイザー 尾山 基

(株)インターテキスト
代表取締役 海野 裕

ANAホールディングス(株)
代表取締役社長 芝田 浩二

(株)NHKエンタープライズ
代表取締役社長 有吉 伸人

大塚化学(株)
特別相談役 大塚 雄二郎

(株)オーディオテクニカ
代表取締役社長 松下 和雄

(公財)オリックス宮内財団
代表理事 宮内 義彦

カシオ計算機(株)
代表取締役 社長 CEO 増田 裕一

キヤノン(株)
代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫

(株)グリーンハウス
代表取締役社長 田沼 千秋

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
代表取締役 社長 斉藤 秀親

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニアデックス(株)
代表取締役社長 田中 建

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天モバイル(株)
代表取締役会長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
代表取締役社長 天坊 真彦

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレソル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓



ご支援の御礼とお願い



昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつその発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みだけでしたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
<https://www.tpo.or.jp/support>

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
 〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
 Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
 Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時～18時)

東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2024年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立113年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

オフィシャル・サプライヤー ※	
法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリュード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。
東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。
ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部(担当: 星野^{かのまた} 鹿丈)

Tel: 03-5353-9521(平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022年度より東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、2023年度も6月から1月にかけて、8校の小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催いたしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とジョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にに使わせていただきます。



お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時～18時／土日祝休)

10月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

酒井豊子・堀俊彦・美保子・平野宗和(他、匿名希望10名) (五十音順・敬称略)



特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
Tel: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バットイストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

アシスタント・
コンサートマスター
Assistant concertmaster

坪井 夏美
Natsumi Tsuboi

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

入江 真歩
Maho Irie

岩田 瑞加
Mizuka Iwata

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

重岡 菜穂子
Nahoko Shigeoka

中村 洋太
Yohta Nakamura

本堂 祐香
Yuuka Hondo

松岡 野乃花
Nonoka Matsuoka

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

小峰 航一◎
Koichi Komine

須田 祥子◎
Sachiko Suda

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki服部 誠◎
Makoto Hattori渡邊 辰紀◎
Tatsuki Watanabe黒川 実咲☆
Misaki Kurokawa高麗 正史☆
Masashi Korai石川 剛
Go Ishikawa大内 麻史
Mao Ouchi太田 徹
Tetsu Ota菊池 武英
Takehide Kikuchi佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki長谷川 陽子
Yoko Hasegawa渡邊 文月
Fuzuki Watanabeコントラバス
Contrabasses片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo小笠原 茅乃
Kayano Ogasawara岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto小栗 亮太
Ryota Oguri熊谷 麻弥
Maya Kumagai菅原 政彦
Masahiko Sugawara田邊 朋美
Tomomi Tanabe中村 元優
Motomasa Nakamuraフルート
Flutes神田 勇哉◎
Yuya Kanda斉藤 和志◎
Kazushi Saitoさかはし 矢波
Yanami Sakahashi菅野 力
Chikara Suganoオーボエ
Oboes荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa佐竹 正史◎
Masashi Satake岡村 彩香
Ayaka Okamura杉本 真木
Maki Sugimoto若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashiクラリネット
Clarinetsアレッサンドロ・
ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari黒尾 文恵
Fumie Kuroo島潟 さくら
Sakura Torigata林 直樹
Naoki Hayashiファゴット
Bassoons河野 星◎
Akari Konoチェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata井村 裕美
Hiromi Imura桔川 由美
Yumi Kikkawa森 純一
Junichi Moriホルン
Horns齋藤 雄介◎
Yusuke Saito高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi磯部 保彦
Yasuhiko Isobe大東 周
Shu Ohigashi小椋 陽咲
Hisaki Ogura木村 俊介
Shunsuke Kimura佐藤 俊輝
Toshiki Sato田場 英子
Eiko Taba塚田 聡
Satoshi Tsukada豊田 万紀
Maki Toyoda西川 優弥
Yuya Nishikawa山内 研自
Kenji Yamanouchiトランペット
Trumpets川田 修一◎
Shuichi Kawata野田 亮◎
Ryo Noda古田 俊博◎
Toshihiro Furuta杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama中嶋 尚也
Naoya Nakajima箕輪 綾子
Ayako Minowaトロンボーン
Trombones辻 姫子◎
Himeko Tsuji中西 和泉◎
Izumi Nakanishi石川 浩
Hiroshi Ishikawa五箇 正明
Masaaki Goka藤田 恵輔
Keisuke Fujita山内 正博
Masahiro Yamauchiテューバ
Tubas大塚 哲也
Tetsuya Otsuka荻野 晋
Shin Oginoティンパニ&
パーカッション
Timpani & Percussion岡部 亮登◎
Ryoto Okabe塩田 拓郎◎
Takuro Shiota秋田 孝訓
Takanori Akita木村 達志
Tatsushi Kimura鷹羽 香緒里
Kaori Takaba中村 勇輝
Yuki Nakamura縄田 喜久子
Kikuko Nawata船迫 優子
Yuko Funasako古谷 はるみ
Harumi Furuyaハープ
Harps梶 彩乃
Ayano Kaji田島 緑
Midori Tajimaライブラリアン
Librarian武田 基樹
Motoki Takedaステージマネージャー
Stage Managers稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka大田 淳志
Atsushi Ota古谷 寛
Hiroshi Furuya◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュペーラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バティストニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『クラシックTV』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2024, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 113th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	佐治 信忠
副理事長	大塚 雄二郎		鈴木 啓介
黒柳 徹子	小山田 隆		瀬谷 博道
専務理事	田沼 千秋		日枝 久
石丸 恭一	玉木 林太郎		
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
	吉田 結衣			安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	近藤 勉	高岩 紀子	新田 清枝	松澤 久美子
池田 敏美	小樽 敦子	今野 芳雄	高野 和彦	新田 伸雄	湊 貞男
糸井 正博	小山 智子	齊藤 匠	高村 千代子	二宮 純	宮原 真弓
今井 彰	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	竹林 良	野仲 啓之助	山屋 房子
井料 和彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 陽子	畑中 和子	吉田 啓義
岩崎 龍彦	加藤 博文	嵯峨 美穂子	田中 千枝	玻名城 昌子	米倉 浩喜
植木 佳奈	金崎 真由美	桜木 弘子	田村 武雄	福村 忠雄	脇屋 俊介
上野 眞行	川人 洋二	笹 翠	津田 好美	藤原 勲	
生方 正好	木村 友博	佐々木 等	戸坂 恭毅	古野 淳	
大兼久 輝宴	黒川 正三	佐野 恭一	長池 陽次郎	細川 克己	
大澤 昌生	黒沢 誠登	清水 真佐子	長岡 愼	細洞 寛	
大和田 皓	河野 啓子	瀬尾 勝保	長倉 穰司	本田 詩子	

〈発行日〉 2024(令和6)年11月13日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン・本文イラスト〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪ チケットの座席番号もチェック！

- ・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪ 開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。
楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

- ・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認を！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪



こころの時間

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2024